

平成30年度・令和元年度

芦北町教育委員会指定 ICT 教育研究推進校



令和2年1月17日（金）
芦北町立佐敷中学校
研究発表会
研究紀要

研究主題

**「確かな学力を育む学習指導の工夫」
～ ICT 機器の活用を中心として～**



はじめに

本校は、昨年度から2年間、芦北町教育委員会から「ICT教育研究推進校」の指定を受け、「確かな学力を育む学習指導の工夫～ICT機器の活用を中心として～」という研究主題で授業改善に取り組んできました。全職員、ロイロノートを中心としたICT機器を活用した研究授業に取り組み、効果的な活用を模索してきました。

本日は、2年間にわたる取組の一端を公開します。ご参会の皆様の忌憚のないご意見・ご感想をいただき、今後の研究の深化に生かして参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

研究の仮説

ICT 機器の活用

生徒に直感的に訴えることができ、その活用が確かな学力を効果的に身に付ける。

どのような場面で活用していくのか？

ICT 機器を活用する目的は何なのか？

確かな学力を育む学習指導の工夫 ～ICT 機器の活用を中心として～

◎研究の仮説

確かな学力を育成するために、ICT機器を活用することで、より効果的に学習指導を進めることができるだろう。また、ICT機器を活用して学習活動を行う上で、基礎となる人間関係づくりや心の教育も並行して行うことで、より高い効果が期待できるだろう。

授業における工夫

確かな学力の定着を

図る授業づくりとは？

- ・ ICT 機器を活用した授業例の提示
- ・ ICT 機器のさらなる活用方法の検討
- ・ 個に応じた指導方法の工夫

授業を支える工夫

自他の良さに気づき、認め合う活動

を通した、お互いをつなぐ人間関係

づくりとは？

- ・ ソーシャルスキルトレーニング
- ・ Good job カードなどで自尊感情の向上
- ・ 中体連大会での応援旗の取組
- ・ 帰りの会での MVP の発表

研究構想図

【学校教育目標】

友情と信頼で結ばれ、豊かな心を持ち、夢実現を目指す生徒の育成

【研究主題】 確かな学力を育む学習指導の工夫～ICT機器の活用を中心として～

視点1

確かな学力の定着を図る授業づくり

- ①ICT機器の効果的な活用
 - ・ ICT機器を活用した授業検討
 - ・ ICT機器の活用方法の検討など
- ②生徒の課題の把握と個に応じた指導法
 - ・ 佐敷中授業デザインなど

研究の仮説

確かな学力を育成するために、ICT機器を活用することで、より効果的に学習指導を進めることができるだろう。また、ICT機器を活用して学習活動を行う上で、基礎となる人間関係作りや心の教育も並行して行うことで、より高い効果が期待できるだろう。

視点2

自他の良さに気づき、認め合う活動を通した、お互いをつなぐ人間関係づくり

- ①充実感や達成感を味わえる体験活動
 - ・ Good Jobカード
 - ・ シェアハッピーBOXなど
- ②人間関係づくりのためのスキル学習
 - ・ ソーシャルスキルトレーニング（全体、クラス）など

ICT機器の活用

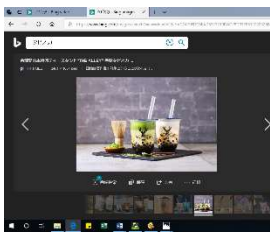
- ・ 基礎的・基本的な学力の定着（学力充実週間、アタック20）
- ・ 基本的な生活習慣の確立（あいさつ、返事、掃除、整理整頓など）
- ・ 学習規律（学びのかまえ、学習者5か条）

など

研究の実際①（1年保健体育「バレーボール」の授業実践より）

過程	学習活動	指導上の留意点
導入	1 学習の準備をする。 2 これまでの授業を振り返りながら、本時のめあてをつかむ。	・本時のめあて、留意点を明確にする。特に、突き指等けがの防止については、再度注意を行う。 【めあて】 ポイントを意識しパス練習を行い、フォームを改善しよう！（アンダーハンドパス）
展開	3 パス練習   自分たちの動きをタブレットで撮影しよう。  自分がイメージしていた動きと、実際の自分の動きとのギャップがあった。自分のイメージでは、もっと体勢を低くし、レシーブをしていたと思った。	【徹底指導場面】 アンダーハンド ・肘を伸ばす。 ・重心(膝を曲げる)。 ・手首から前腕でボールを捕らえる。 【集団思考場面】 ルックポイント ・腕の位置はどうか。 ・手の動きはどうか。 ・膝は曲がっているか。 ・姿勢はどうなっているか。 【ICT活用：技のポイントと比較】 ・ルックポイントに着目し、自分の動きを確認し、自分の動きを高めるために、修正を行う。 ・お互いの動きについて、意見を出し合うことで、改善点を把握する。  
整理	4 学習の振り返りをする 【まとめ】自分のフォームの注目すべきポイントは？ 例) 腕, 肘, 重心(膝を曲げる), 落下点の予測 【ICT活用：客観的に確認】 ・ポイントを意識した動きができていないか確認する。	反省を活かし、最後にもう一度アンダーハンドパスを行いました。みんな、動きが良くなっていました。  良い点は今後も継続しよう！

研究の実際②（1年理科「物質の密度」の授業実践より）

過程	学習活動	指導上の留意点
導入	1 既習事項の確かめをする。 2 演示実験を見て課題をつかむ。  物体が途中で留まっているのは、なぜでしょうか？	・ e ライブラリを用いて、基礎的基本的事項を確認させる。 【ICT 活用：基礎基本の徹底】 ・ 繰り返し問題に挑戦させる。 ・ 本時の課題解決に必要な知識を思い出させる。 【めあて】液体中で、物体が浮いたり途中で止まったりしている現象を解明し、再現しよう。
展開	3 課題を解決するための方法を考える。 写真通りに準備できた。実験方法は・・・  ポリエチレンは水に浮くね。 エタノールには沈んだけど、水には浮いたね。  ポリエチレンってエタノールと水の境目で留まるかな。	【個人思考場面】 ・ 3種類の液体と5種類の物質の浮き沈みについて調べ、ロイロノートで写真を撮り記録させる。 ・ 2種類の液体の中間で物質が浮くためには、どの液体と物質を組み合わせるとよいのかを考えさせる。 【ICT 活用：情報の整理・比較】 ・ 写真を基に液体によって浮くか沈むかを表にさせる。 ・ 表を作ったことで、思考の見える化ができる。それぞれの物質と液体の密度の相対性を考えさせる。 【ICT 活用：見通し】 ・ 実験準備物の確認や実験方法、結果のまとめ方を個人にタブレットで確認させる。 ・ 班で準備物の振り分けをタブレットを見ながら進めさせる。 表にまとめやすいように、写真を整理して・・・ 【集団思考場面】 ・ 各自が考えた液体と物質で再現できるかを班内で検討させ、実際に再現を行わせる。 考えた通りにプラスチックが液体の途中で留まった！
整理	4 まとめと日常生活との関連 【まとめ】物体は、物体の密度より密度が大きい液体に入れると浮き、密度が小さい液体に入れると沈むことから、密度が異なる液体を利用することで、物体を途中で止めることができる。 	・ アイスコーヒーにガムシロップを入れ混ぜないと下の方が甘くなることも同じ現象であることを伝える。 【ICT 活用：拡大・共有】 ・ 大型ディスプレイに映して、視覚的にわかりやすくする。 ・ 全員が同じイメージをもてるようにする。

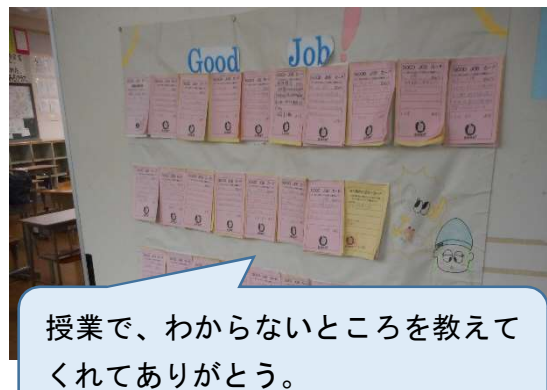
研究の実際③（自尊感情と信頼関係を高めるための取組）

Good Job カード

日常場面や行事などの取組のなかで、生徒同士が気づいたお互いの良さを記入する。また、教師からもカードを書き、昼の放送で紹介している。

スマイルカード

生徒から教師に向けて、Good Job カードと同様の取組を行っている。生徒が素直に感謝の気持ちを持つきっかけとなった。



ソーシャルスキルトレーニング(SST)

学校全体(7月実施)や学年(月1回実施)、学級(月3回程度実施)で交流を行いながら、ソーシャルスキルトレーニングを行った。

「本当の自信」という SST の様子



「上手なほめ方を考えよう」という SST の様子



生徒会活動での取組

①シェアハッピーBOX

良い行いをした生徒についてだけでなく、自分が行った良い行動もカードに書く取組を行い、カードは昼の放送で紹介した。



いつも数学の時間に挙手していてすごいと思います。これからも、がんばってください。

②中体連大会などのメッセージ

体育委員会が中心となり、全員が各部に応援メッセージを書き、それをまとめて、メッセージとして各部に送った。

③学期末に実施する生徒会アンケート

生徒会年間目標を中心に、日常生活を振り返るアンケートを行い、その結果を生徒集会で発表した。



その他の取組

- ・ 帰りの会での1分間スピーチとそれに対する感想発表。
- ・ 帰りの会での「今日の MVP」の発表。
- ・ 文化部で作成した各部への中体連大会への応援旗。
- ・ 心の連絡会、QUテストの結果共有、心のアンケート、教育相談。



佐敷中学校 学びのかまえ ～自分を伸ばす・みんなで高める～

本校では、生徒一人一人の学びに向かう心構えを育み、生徒全員が足並みを揃えて学習を進めるようにするため、平成28年度から「学びのかまえ」を生徒・保護者に毎年配付し、機会あるごとに指導することで、学習訓練の充実と学習習慣の定着を図っている。その主な内容は次のとおり。（※一部抜粋）

授業の受け方

間違いを大切にする

間違えることを決して恐れる必要はありません。また、人の間違いや失敗を決して馬鹿にしたり、からかったりしてはいけません。

困っている人に声かけをする

お互いの考えを交流し合うこと、そして、困っている人を見逃さずアドバイスすること、それが自分の学びをより確かなものにしてくれます。

前向きな姿勢で取り組む

ぜひ、前向きな声、表情を教室中にあふれさせ、意欲的、積極的に学習に取り組む雰囲気をつくっていきましょう。

知・徳・体のバランスを大切に

家庭学習の仕方

計画は帰りの会で

帰りの会の時間には、生活ノートに明日の準備物等を書き込む時間があります。そのとき、家庭学習の欄に、今夜の予定を書き込んでおきましょう。

まずは宿題から確実に！

宿題の内容は、ワークやプリントなど様々ですが、身につけてほしい内容ばかりです。確実に、そして丁寧にやっていきましょう。

宿題以外でどれだけできるか

宿題が終わったからもう家庭学習は終わり、ではありません。与えられたもの（宿題）をやるだけでなく、自分から求めて行う学習こそ真の家庭学習です。

家庭学習目標時間：2時間以上

学習者五か条

学習委員会の呼びかけの下、生徒は授業において「学習者五か条」を意識して学習に取り組んでいる。

① 1分前着席

～学習に向かう準備をしておこう～

② 腕を伸ばして挙手

～正しい姿勢で学習に取り組もう～

③ 「はい」という返事

～問いかけや意見には反応しよう～

④ 伝わる声量で発言

～自分の考えを発言できる力をつけよう～

⑤ 体を向けて考えながら聞く

～まわりの人を大切にする気持ちを！～

生徒自己評価(4段階)



【生徒の感想】

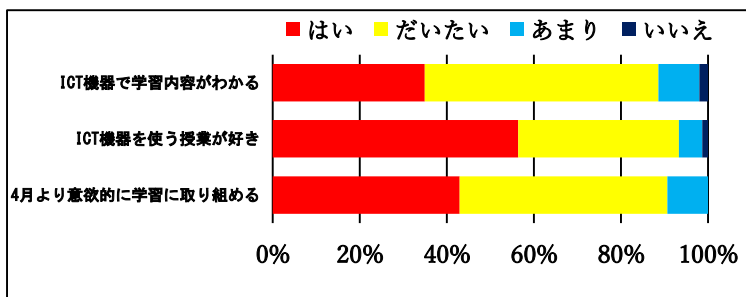
- だんだんと評価4の項目が増えてきた。「体を向けて考えながら聞く」をもっと意識して頑張りたい。
- 発表以外の項目はよくできていたので、今後は発表の項目をもう少し頑張りたいと思った。
- 「1分前着席」ができていない日が数日あったので、もっと時間を見ながら行動したいと思った。
- 「はいという返事」をたまに忘れてしまっていることがあるので、もっと意識して改善していきたい。

【教師の評価】

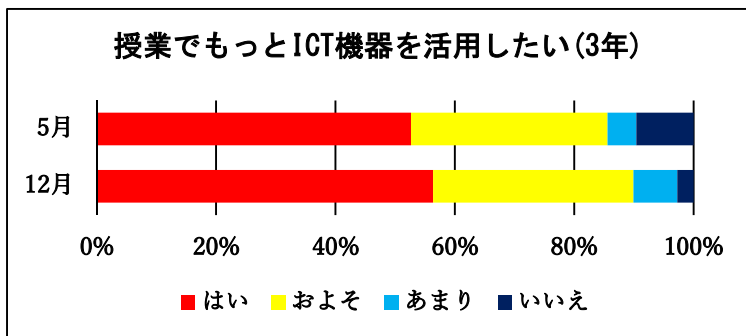
- 互いに積極的に会話しながら学習できていた。また、しっかり発表者の方を向いて話を聞いていた。
- 授業が始まる前に、自分たちで呼びかけて「1分前着席」を達成することで、集中して授業に入れた。
- 着席や挙手は、学級全体で取り組むことで意識が高まったが、発言の時の声量は個人差が大きい。
- 特別教室の授業では、1分前着席に間に合わない生徒が一部見られる。早めの移動を指導したい。

研究の成果と課題

【視点1：確かな学力の定着を図る授業づくり】

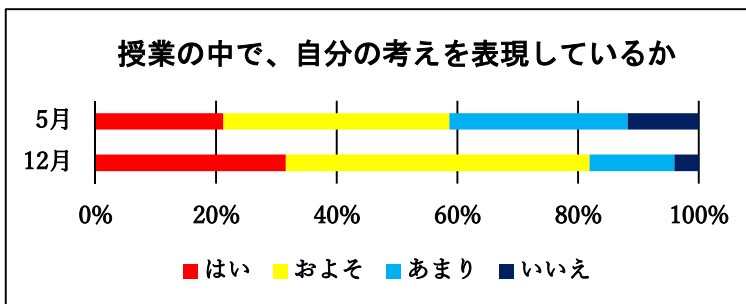


- ・アンケート結果から、ICT 機器を活用することで、生徒が意欲的に学習に取り組むことがわかる。
- ・効果的に活用することで、表現力を高めることができた。
(生徒感想より)

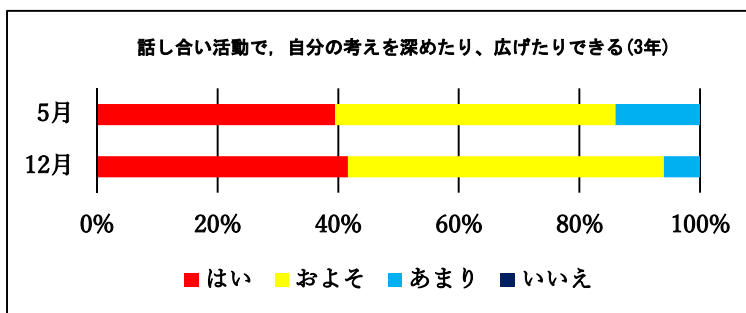


- 大事なことや実験中の重要なところを撮影できたり、その写真に書き込んだりすることができるので、まとめやすい。
- タブレットで資料などを出しながら説明できるところが良い。
- ▲ICT 機器で、たくさんの人の意見を見たり、聞いたりできるが、早く終わる人と時間がかかる人との差があるので時間がかかる。

【視点2：自他の良さに気付き、認め合う活動を通した、お互いをつなぐ人間関係づくり】



- ・ソーシャルスキルトレーニングをすることで、伝え方を考え話したりしっかり聞いたりする力がついた。
- ・ICT 機器を活用することで、より自分の考えを表現できるようになった。
(生徒感想より)



- ICT 機器を使うことで、日ごろ発表できない人も自分の意見を述べるができる。
- みんなの考えなどがそれぞれのまとめ方でまとめられていて、こんなやり方もあるんだなと学ぶことができた。
- ◆ICT 機器を使っの活動はとてもうれしいが、一方で先生の話や友だちの話を聞き逃したりする。

今後はどのような場面で効果的に ICT 機器が使用できるのかを精選していくことが重要である。

【おわりに】本校では、芦北町教育委員会から指定を受け、試行錯誤しながら研究に取り組んできました。課題もありますが、これからも全職員で ICT 機器の効果的な活用を図り、学力向上に努めて参ります。最後になりましたが、本研究推進のためにご指導を賜りました助言者をはじめ、芦北町教育委員会、参観いただいた先生方、その他関係者各位に心からお礼申し上げます。

【研究同人】

令和元年度	田村紀広	山下暢子	大瀬秀彦	光永朋樹	庄島 碧	大窪豊量	後藤英治	野田穂乃香
	井川友子	畑口康熙	竹若美千代	上河大樹	深水聡子	松岡秀治	原田達明	原 友紀
	櫻田裕妃	松永康宏	木川 梢	和田智美	蓑田尚子			
平成 31 年度	永野敏夫	宮尾美穂	二殿大輔	西本誉昭	澤江匡代	早田聖羅		